別紙2　令和4年度　自己評価書　作成日：令和5年1月10日　国分寺市立第二中学校　校長名　岡本　祐治

教育目標：	○健康で　たくましく生きる　○みずから学び　創造する　○心豊かに互いを尊重する
めざす学校像： めざす生徒像： めざす教師像：	○学ぶ喜びが実感できる学校　○ふれあう喜びに満ちた学校　○夢を育む学校　（校訓）　師弟同行、夢 超スマート社会　Society5.0に向けて、世界の人々の幸福を願い、主体性を持って生きる人 授業実践を通して授業力を高め合える教師、適切な指導ができる教師、組織の一員として協力して職務を遂行できる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標（中間）	努力指標（最終）	成果指標（中間）	成果指標（最終）	分析コメント	改善策
確かな学力の伸長	ICTを活用した令和型教育により、学ぶ楽しさ、わかる喜び、学び続けようという意欲を育む授業を工夫し、確かな学力の伸長を図る	●基礎的・基本的な知識及び技能の習得	１人１台のタブレットの活用やICTを活用し、個別最適化された学びを充実することで、誰もが「わかる」「できる」授業を実現する。	4 96.4%	4 95.6%	4 89.2%	4 89.0%	教員は、今年度設置のICT推進委員会を中心とする校内研修の実施で、学習系タブレットの活用について活用能力を高めてきた。授業では「わかる」「できる」授業をめざし努力している。また生徒も授業は「わかる」と後期も継続して多くの生徒が肯定的な回答をしている。	ICT推進委員会による研修等で、ICTの効果的な活用にある程度の成果が見られた。今後はさらに、（アナログ）＋（デジタル）の授業から（アナログ）×（デジタル）な授業へ改善していく必要がある。また1人1台のタブレット型パソコンを使った家庭学習の支援をすすめ、基礎的・基本的な知識及び技能の向上をさらにすすめていく。
		●主体的、対話的で深い学びの実現	討議、発表など学習形態を工夫し、自分の考えを自分の言葉で表現する場を数多く設ける。	3 85.7%	4 91.3%	4 88.0%	4 85.2%	コロナ禍によるグループ学習等の制限について今までの知見をもとに、可能な範囲ですすめることで、活動の再開もできたことが努力指標に表れていると考える。生徒の肯定的な回答は前期に比べ若干下がったことは、発表等の機会が増えたことの影響もあるのではと考えられる。	自分の言葉で表現する場を今後も授業等で設定していく。また個別最適な学びと協働的な学びを実現させていく必要がある。
豊かな心の育成	人と人とのふれあいを通し、自己肯定感を高め、心豊かに自信をもって生きていく力を育む	●道徳教育の充実	特別の教科道徳の趣旨を踏まえ、題材や発問を工夫することで「考える道徳」「議論する道徳」の授業を実現する。	2 84.6%	4 90.4%	4 90.1%	4 84.6%	前期に比べ授業改善への意識は高くなった。これは、東京都教育委員会のデジタル教科書モデル校として、道徳のデジタル教科書について研修を行った効果とも考えている。生徒の成果指標は前期に比べポイントは下がったがほぼ高い水準は維持できた。	今後も題材や発問の工夫をさらにしていく。そのためにローテーション道徳をすすめ授業力の向上をさらにすすめていく必要ある。評価についてはさらに生徒のよい点を認め評価できるよう改善していく必要がある。
		●生徒の自己肯定感を高め、不登校やいじめ等の課題の解決につなげる。	一人一人の良さを見つけ、褒め、認め、励まし、伸ばす指導を推進する。	4 100%	4 95.6%	3 75.1%	3 76.6%	今年度の全国学力学習状況調査（3年生）では、「自分には良いところがある」という自己肯定感に関する質問で、肯定的な回答をした生徒が、全国平均で78.5%であった。二中では、前期75.1%から後期76.6%とまだ全国平均からすると低い数値とはなっているが、1.5ポイント上昇できたことは評価できると考えている。	今後も「一人一人の良さを見つけ、褒め、認め、励まし、伸ばす指導」を継続していく必要がある。また自己肯定感の低い生徒については、学校評価アンケートの時期だけでなく、声掛けの中でも生徒の自己評価を確認し、より意識した声掛けを行っていく必要がある。
夢を育む	将来に対する夢と希望をもちよりよい人生を送ろうとする力を育む	●日頃の生活の中で、夢につながる目標をもち挑戦する姿勢を高める	キャリア教育をはじめ様々な活動を通して、将来設計能力や意思決定能力を高める。	4 92.9%	4 90.9%	3 69.5%	4 70.9%	「将来の夢や目標をもっている」という質問について肯定的な回答は、1年生57.5%、2年生73.2%、3年生80.1%と学年による差が大きかった。2学期は二中の二大行事もあり目標をもって取り組んだ。その意義をより認識している上級生たちは、より目標に向かって意識をして取り組むことができたことがこの値につながった一つの要因とも考えている。	中学生にとっては将来の夢というとハードルが高い。今後も日頃の身近な目標が、将来の夢につながっていくことを繰り返し伝えていく必要がある。またキャリアパスポートを有効に活用しキャリア教育をすすめていく。
特色ある教育活動の推進	特色ある教育活動を推進し、地域から信頼される学校を創造する	●特別支援教育の充実	学校行事による共同学習を工夫し、通常の学級と特別支援学級の交流を推進する。	4 88.9%	4 86.9%	2 70.2%	3 75.1%	2学期は大きな行事もあり、特別支援学級との交流の機会も多くもつことができた。そのことが成果指標の数値にも表れていると考える。行事の他にも様々な交流や共同学習の機会はあったので、それを生徒に意識させることが今後の課題である。	学期の反省の学年集会では、特別支援学級の教員も全体への話をすることが生徒にとってお互いを理解するために効果があるので、今後は積極的にすすめていく。
		●校訓「師弟同行」のもと生徒とともに歩み、生徒の学校居心地感を高める。	生徒の活動場所に常に身を置き、小さな変化も見逃さない指導体制を充実する。	4 100%	4 100%	4 86.1%	4 87.4%	教員は連絡帳へのコメントの記入などこまめに生徒に声掛けを行っている。また生徒に寄り添うことに努めている。前期に比べ1年生、3年生は肯定的な回答が増加した。その結果として全体でのポイント上昇につながった。2年生については、ポイントが下がったが1学期が大幅に高かったことによるものと考えている。	1年生については中学校生活への慣れもポイント上昇の要因とも考えられるが、どのようなアプローチが有効だったか次年度に向け検証していく必要がある。また13%弱の生徒が学校居心地感について否定的な回答なので、それが前期、後期ともになのか、後期になってなのか細かな分析を行っていく必要がある。